

総合政策学部 実務経験教員 授業科目

2017～2022年度入学生 授業科目名	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	地域	ヘ ー シ ン ク	実 践	実 務	備 考		
		1年次		2年次		3年次		4年次											
		前	後	前	後	前	後	前	後										
地域社会と環境	2	○								兼	野呂 達哉	34	○	○					
地域防災	2	▲								兼	鬼頭 浩文	35	○	○	○	○		オンデマンド	
地域連携特別講義a	2		▲								倉田 英司	36	○	○	○	○			
民法入門	2		○								土志田 佳枝	46					○		
キャリア基礎Ⅰ	②		○							兼	岡 良浩	65					○		
キャリア基礎Ⅱ	②										兼	吉山 青翔	66					○	
												岩崎 祐子							
												岡 良浩							
												永井 博							
												中西 紀夫							
											兼	田中 伊知郎							
											兼	樋口 晶子							
兼	牧田 直子																		
キャリア基礎Ⅲ	2											岩崎 祐子	67					○	
												岡 良浩							
												永井 博							
												中西 紀夫							
											兼	田中 伊知郎							
											兼	樋口 晶子							
											兼	牧田 直子							
兼	吉山 青翔																		
非	李 修二																		
ビジネスマナー	2		○						非	長野ゆき子	90						○		
販売士講座	2			○					非	山川 和美	92							○	
ビジネスコミュニケーション	2			○					非	長野ゆき子	93							○	
マーケティング演習	2						○			岡 良浩	97	○	○					○	
おもてなし特別講義a	2											岩崎 祐子	98	○	○				○
												岩崎 祐子							
												岡 良浩							
おもてなし特別講義b	2											岩崎 祐子	99	○	○				○
												岡 良浩							
											兼	池田 幹男							
メディアツールa	2	○							非	西尾 秀樹	110							○	
メディアツールb	2		○								非	西尾 秀樹	111						○
											非	山本 努武							
メディアツールc	2			○						非	田中 麻衣	112							○
メディアツールd	2				○					兼	柳澤 翔士	113							○
Webデザインa	2				○					非	堀内 敬弘	114							○
Webデザインb	2					○				非	堀内 敬弘	115							○
インターネット論	2									兼	柳澤 翔士	118							○
行政法	2											小林 慶太郎	196	○	○				○
												中西 紀夫							
環境社会学	2				○					非	村田 静昭	205							○
食とまちづくり	2		○								小林 慶太郎	206	○	○	○	○			○
祭りともちづくり	2			○								岩崎 恭典	207	○	○	○	○		○
												浅井 雅							
音楽ともちづくり	2				○					兼	鬼頭 浩文	208	○	○	○	○			○
鉄道ともちづくり	2				○							前川 督雄	209	○	○	○	○		○
												岩崎 恭典							
NPO論	2			○								小林 慶太郎	212	○	○				○
											兼	鬼頭 浩文							
スポーツ栄養学	2				○					非	櫻井 智美	229							○
介護予防スポーツ	2				○					非	池田 裕美子	235							○
起業論	2				○						岡 良浩	257							○
出版文化論	2				○					非	稲葉 年計	259							○

授業科目名	地域社会と環境		【実務】	科目コード	171305	授業コード	115308
担当教員	野呂 達哉			科目ナンバリング	GEC1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」をとりあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。						
到達目標	農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけでなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 地域社会と環境問題 第3講 農村と里山 第4講 里山の自然と維持管理 第5講 里山の衰退と獣害問題 第6講 里山の再利用とエコツーリズム 第7講 郊外の自然と身近な生物の減少と消失 第8講 都市の自然と生物多様性 第9講 外来生物問題 第10講 ペットの遺棄と地域ネコ 第11講 グローバル化と感染症問題 第12講 都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物 第13講 地域住民による外来生物対策 第14講 地域住民による生物調査と保全の取り組み 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「里山の環境学（武内和彦ほか）東京大学出版会，2001」、「都市で進化する生物たち（メノ・スヒルトハウゼン）草思社，2020」「野生動物問題への挑戦（羽山伸一）東京大学出版会，2019」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業に対する積極性（50%）、期末試験（50%）を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な環境問題の題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
担当者から一言	環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。						

授業科目名	地域防災	【実務】	科目コード	171306	授業コード	115306
担当教員	鬼頭 浩文		科目ナンバリング	GEC1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。					
授業のねらい	<p>この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指す。この資格は、就職においても有利になる。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘する。</p> <p>*5月の週末3日間(18時間)は、外部からの受講生も参加する「防災士養成講座」に参加することをもって5週分の講義とする。</p> <p>*テキスト・受験料などの実費13,000円が必要です。</p> <p>*防災士試験に合格すると、別途5,000円の登録費用が必要です。</p>					
到達目標	この講義を通して、大規模災害時に自分や家族の命を守り、復旧・復興に向けた企業や地域などでの活動をリードできる人材になるのが目標である。					
授業計画	<p>対面：ガイダンス(テキスト販売や書類配布)、第5～10講。 オンデマンド：その他の講義</p> <p>1 4/7 ガイダンス(対面)/補講1；近年の主な自然災害（以下、オンデマンド） 2 4/14 第1講；地震・津波/第2講；気象災害・風水害/第9講；行政の災害対策 3 4/21 第7講；ハザードマップ/補講2；耐震補強/第20講；災害ボラ/第17講；自主防災 4 4/28 第11講；復旧・復興/第12講；災害医療/第18講；避難所 5 5/12 ★普通救命講習（場所：体育館）*3・4時間目 6 5/13 午前；防災士養成講座（会場研修）① 7 5/20 午前；防災士養成講座（会場研修）② 8 5/20 午後；防災士養成講座（会場研修）③ 9 5/27 午前；防災士養成講座（会場研修）④ 10 5/27 午後；防災士養成講座（会場研修）⑤ 11 5/26 第3講；土砂災/第4講；火山/第5講；火災 12 6/2 第6講；予報・警報/第8講；災害情報/第10講；行政 13 6/9 第13講；ライフライン/第14講；事業継続/第15講；地震・津波への備え 14 6/16 第16講；風水害・土砂災害への備え/補講3；損害保険 15 6/23 第19講；多様性/第21講；防災士に期待される活動/補講4；各種訓練 ★8月5日(土)午後に防災士試験を実施する。 ★日程は変更することがある。</p>					
テキスト・教材（参考文献含む）	『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担¥13,000に含まれる。					
事前・事後学習	OD動画は、講目ごとに分けてある。講目ごとに事前にテキストを30分ほどかけて読んでから動画の視聴をし、指示に従ってマーカーを引き、視聴後に重要箇所を履修確認レポートにまとめてもらう。また、週末の集中講義で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験までに必ず15～20時間の復習をすること。					
成績評価方法	講義で学んだことをまとめる履修確認レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。					
授業内の課題・提出方法	テキストの各項目について重要箇所をまとめる履修確認レポートを書き、Moodleで提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。					
担当者から一言	講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。					

授業科目名	地域連携特別講義 a	【実務】	科目コード	171307	授業コード	116502	
担当教員	倉田 英司		科目ナンバリング	GEC1007			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。						
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。						
授業計画	<p>10月上旬 「ガイドンス」 13：00-14：00 現状把握と課題解決の考え方 14：10-15：10 ご当地グルメを活用した町おこし 15：20-17：00 グループワーク</p> <p>10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13：00-15：30 展示見学・講義 15：40-17：00 グループワーク</p> <p>10月下旬 「食を活かした観光開発」 10：00-12：00 施設見学・体験 12：00-13：00 昼食・移動 13：00-14：00 農を活かした観光開発 14：10-16：10 グループワーク</p> <p>11月下旬 「食と観光を踏査する」 10：00-16：10 フィールドワーク</p> <p>12月上旬 「食と観光を考える」 13：00-17：00 グループワーク</p> <p>12月中旬 「食と観光を発表する」 13：00-16：00 成果発表会 16：00-17：00 講評・まとめ</p> <p>※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況や受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じて資料等を配布する場合があります）						
事前・事後学習	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。 成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。						
成績評価方法	①グループワーク等への取組姿勢 60% ②成果発表レポート 40% ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。						
授業内の課題・提出方法	成果発表の内容について、レポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィールドワークで出た意見については、適宜コメントを行う。						
担当者から一言	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずですが、他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。						

授業科目名	民法入門	【実務】	科目コード	171410	授業コード	113801
担当教員	土志田 佳枝		科目ナンバリング	GLAS1010		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	この講義は、実際に新聞やテレビなどで報道された事件や問題、身近な紛争（トラブル）を取り上げ、解決方法を考察しながら、民法の全体像を理解していくことを目的とします。新聞を下宿で購読していなくとも、テレビを持っていなくとも、今ではインターネットやSNSを通じて世界中のニュースを日本語で読めるようになりました。普段から、パソコンや携帯電話のアプリを通じて、様々な話題に興味を持って接してください。					
到達目標	新聞やテレビの報道で接した事件や問題、紛争を解決するために、民法からどのような妥当な結論を引き出せるだろうか考え、さらに解決方法を自らの筆で文章にまとめることを到達目標としたいと思います。したがって、授業には筆記用具を持参してください。なお、法令についてはオンラインで最新の条文に触れるようにしてください（e-gov法令検索「民法」「民事訴訟法」「家事事件手続法」「法の適用に関する通則法」など）。					
授業計画	<p>予習には教科書の指示した範囲を通読します。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります。</p> <p>1民法と民法典（予習90分：第1章）（復習90分） 2権利と義務（予習90分：第2章の1）（復習90分） 3契約1債権・債務（予習90分：第2章の2）（復習90分） 4契約2未成年（予習90分：第3章）（復習90分） 5後見（予習90分：第4章）（復習90分） 6所有権と占有（予習90分：第5章）（復習90分） 7時効（予習90分：第6章1消滅時効）（復習90分） 8不法行為と不当利得（予習90分：第6章2法定利率）（復習90分） 9事務管理（予習90分：第6章3約款）（復習90分） 10婚姻（予習90分：第6章4サービス契約）（復習90分） 11離婚（予習90分：第6章5自然災害と契約法）（復習90分） 12親子関係（予習90分：第7章）（復習90分） 13養子縁組（予習90分：おわりに）（復習90分） 14相続（予習90分：相続法改正資料）（復習90分） 15講義のまとめ（予習90分：これまでの復習）（復習90分）</p>					
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>参考文献： 内田貴『民法改正—契約のルールが百年ぶりに変わる』（筑摩書店・2011） ISBN 978-448006634</p> <p>参考文献は新書と電子書籍で入手可能ですが、必ずしも購入の必要はありません。グローバル化の影響は皆さんの学ぶ民法にも及んでいます。近年の法改正にあわせて、わかりやすい本が次々出版されています。ぜひ図書館で手に取ってみてください（大学図書館の図書を探す https://ci.nii.ac.jp/books/）。</p>					
事前・事後学習	予習には教科書の指示した範囲を通読します（90分）。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります（90分）。詳細は授業計画を参照してください。					
成績評価方法	定期期末試験（50％）と平常点（50％：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。					
授業内の課題・提出方法	課題は教室で受け取る予定です。提出日や書式などについては教室で案内します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	定期期末試験（50％）と平常点（50％：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。					
担当者から一言	講義の内容に関する質問は、教室で受け付けています。そのほか、授業時間外学習を支援する目的で、不明な点があれば授業時間外でも回答ができるよう、メール等の手段により質問を受け付ける予定です。					

授業科目名	キャリア基礎Ⅰ	【実務】	科目コード	171701	授業コード	111501
担当教員	岡 良浩		科目ナンバリング	GECC1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 必修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。					
授業のねらい	この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、皆さんの将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。「キャリア基礎Ⅰ」では、とりわけ就職をとりまく社会環境がどのようなものかを理解することを主なねらいとします。具体的には、働き方や地域の産業・経済、労働者の権利や大学生の雇用・求人の情勢などを理解します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。					
到達目標	以下の3つが目標です。 ① 働く意義について考える。 ② 就業環境について理解する。 ③ 採用試験の基礎知識を習得する。					
授業計画	第1講 ガイダンス/キャリアをどう考えるか 9/25 第2講 課題と実習(社会人基礎力①) 10/2 第3講 課題と実習(社会人基礎力②) 10/9 第4講 知っておきたい採用試験の基礎① 10/16 第5講 知っておきたい採用試験の基礎② 10/23 第6講 働き方はどうなっているか 10/30 第7講 経営者によるキャリア講演会 11/6 第8講 課題と実習 11/13 第9講 知っておきたい採用試験の基礎③ 11/20 第10講 働く者の権利 11/27 第11講 知っておきたい採用試験の基礎④ 12/4 第12講 知っておきたい採用試験の基礎⑤ 12/11 第13講 大学生の雇用と求人の情勢 12/18 第14講 キャリアサポートセンターについて 1/15 第15講 まとめ 1/22					
テキスト・教材(参考文献含む)	テキストはクラス担当教員から配付します。 毎回の講義には必ず持参してください。					
事前・事後学習	予習: あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。 復習: 講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。					
成績評価方法	期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%					
授業内の課題・提出方法	授業内で適宜課題を課します。提出は授業形態に応じて教室内で提出あるいはForms・Moduleを用いた提出を行います。毎回の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題は、コメントをつけて返却あるいは全体で講評を行います。					
担当者から一言	就職は卒業までに必ず考えなければならない事柄です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。					

授業科目名	キャリア基礎Ⅱ	【実務】	科目コード	171702	授業コード	111103
担当教員	岡 良浩		科目ナンバリング	GECC1002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 必修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。					
授業のねらい	この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。 「キャリア基礎Ⅱ」では、自己分析・自己PRを中心に行います。自己分析とは「どんなシゴトがしたいか」「どんなシゴトが自分に向いているか」「どんな会社に行きたいか」を自覚することをいいます。ここでは初めて自己分析・自己PRを行う学生を前提にその手法を学びながら自己分析・自己PRを行っていただきます。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。					
到達目標	以下の4つの到達目標があります。 ① 自己分析のさまざまな方法を習得し、実際に行ってみること。 ② 自己PRの方法を学習し、自らの自己PRを考えてみること。 ③ 履歴書やエントリーシートを作成すること。 ④ 採用試験の基礎を習得すること。					
授業計画	第1講 ガイダンス/自己分析のすすめ 4/10 第2講 自己分析実習①適性をみる 4/17 第3講 知っておきたい採用試験の基礎⑥ 4/24 第4講 自己分析実習②過去の自分をふりかえる 5/8 第5講 自己分析実習③他者の意見を聞く 5/15 第6講 知っておきたい採用試験の基礎⑦ 5/22 第7講 自己分析実習④未来の自分を考える 5/29 第8講 自己分析実習⑤自己PRを考える 6/5 第9講 知っておきたい採用試験の基礎⑧ 6/12 第10講 業界・企業研究のすすめ 6/19 第11講 企業研究実習 6/26 第12講 知っておきたい採用試験の基礎⑨ 7/3 第13講 履歴書・エントリーシートを書く(実習)① 7/10 第14講 履歴書・エントリーシートを書く(実習)② 7/17 第15講 知っておきたい採用試験の基礎⑩ 7/24					
テキスト・教材(参考文献含む)	テキストはクラス担当教員から配付します。 毎回の講義には必ず持参してください。					
事前・事後学習	予習：あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。 復習：講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。					
成績評価方法	期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%					
授業内の課題・提出方法	授業内で適宜課題を課します。提出は授業形態に応じて教室内で提出あるいはForms・Moduleを用いた提出を行います。毎回の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題は、コメントをつけて返却あるいは全体で講評を行います。					
担当者から一言	自分を客観的に見つめ直し、将来を考えるよい機会です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。					

授業科目名	キャリア基礎Ⅲ	【実務】	科目コード	171703	授業コード	111702
担当教員	岡 良浩		科目ナンバリング	GECC1003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。					
授業のねらい	キャリア基礎Ⅲでは、具体的な就職活動を想定し、企業説明会・エントリー・面接など、ひとつおりの就職活動を模擬的に体験することを主な内容とします。就職活動中は、学生ではなく、社会人としての行動が要求されます。このようなビジネスマナーについても演習を行います。全体を通して、実際の就職活動に向けて学生が自信を持てるように個別指導を行っていきます。また、就職活動の方法は毎年変化していくため、新しい面接の手法なども積極的に取り入れ、対応方法についても勉強していきます。					
到達目標	<p>模擬的な就職活動を行うことによって以下の5つの能力を養うことが目標です。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① キャリア基礎Ⅱで行った自己分析・自己PRを実践的にブラッシュアップすること ② 就職活動を行うための経済・社会・企業の情報収集方法を身につけること ③ 就職活動に関するビジネスマナーを身につけること ④ グループディスカッション・面接・プレゼンなどの方法を学ぶこと ⑤ 全体として社会人としての言動や表現力を身につけること 					
授業計画	<p>第1講 ガイダンス/グループディスカッション①9/25 第2講 グループディスカッション②10/2 第3講 グループディスカッション③10/9 第4講 日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか10/16 第5講 新聞を読む10/23 第6講 新聞を読む(実習) 10/30 第7講 ビジネスマナー①(面接) 11/6 第8講 模擬合同企業説明会11/13 第9講 エントリーシートの作成① 11/20 第10講 模擬面接(実習) ① 11/27 第11講 模擬面接(実習) ② 12/4 第12講 ビジネスマナー②(書類の送付、メール・電話対応) ① 12/11 第13講 プレゼン面接(実習) ② 12/18 第14講 プレゼン面接(実習) 1/15 第15講 まとめ1/22</p>					
テキスト・教材(参考文献含む)	テキストはクラス担当教員から配付します。 毎回の講義には必ず持参してください。					
事前・事後学習	予習：あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。 復習：講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。					
成績評価方法	期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%					
授業内の課題・提出方法	授業内で適宜課題を課します。提出は授業形態に応じて教室内で提出あるいはForms・Moduleを用いた提出を行います。毎回の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題は、コメントをつけて返却あるいは全体で講評を行います。					
担当者から一言	3年生では就職ガイダンスがはじまります。ここで勉強したことを生かして、失敗を恐れず行動することが何より重要です。果敢にチャレンジしてください。					

授業科目名	ビジネスマナー		【実務】	科目コード	172301	授業コード	115601
担当教員	長野 ゆき子			科目ナンバリング	GSHM1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	<p>本講義は、ビジネスマナーの初歩を学びます。</p> <p>ビジネスマナーは一つのスキルではありませんが、その本質は人間関係です。</p> <p>そこでまずは、日常の良好な人間関係をどう作っていくかを学びます。</p> <p>そのうえで、一般的なマナーを学びます。表現には、言葉（言語）以外に、身振り・手振りといった非言語コミュニケーションも含まれます。</p> <p>この応用としてビジネスマナーがあります。</p> <p>職場内やお客様との間でのさまざまなシーンを想定して、ビジネスマナーの基本を学びます。</p> <p>講師は、実務経験者で企業向けに学外講師を務めている方です。</p>						
到達目標	<p>社会人としてのビジネスマナーを実践的に学ぶことです。</p> <p>① 人間関係づくりを学ぶこと。</p> <p>② 一般的なマナー（言語・非言語）を習得すること。</p> <p>③ シーンごとのビジネスマナーの基礎を習得すること。</p>						
授業計画	<p>① 9/29 ガイダンス人間関係づくり① チームワークと価値交流</p> <p>② 10/6 人間関係づくり② コミュニケーションとは</p> <p>③ 10/13 人間関係づくり③ パフォーマンス学</p> <p>④ 10/20 人間関係づくり④-1 話し方・聞き方・考え方</p> <p>⑤ 10/27 人間関係づくり④-2 話し方・聞き方・考え方</p> <p>⑥ 11/3 一般的なマナー①-1 敬語</p> <p>⑦ 11/10 一般的なマナー①-2 敬語</p> <p>⑧ 11/17 一般的なマナー②-1 表情・声・身体表現</p> <p>⑨ 11/24 一般的なマナー②-2 表情・声・身体表現</p> <p>⑩ 12/1 ビジネスマナー① 職場のルール・報連相</p> <p>⑪ 12/8 ビジネスマナー② 受付・案内・席次・訪問時のマナー</p> <p>⑫ 12/15 ビジネスマナー③ 一般文書とビジネス文書 (メールと書類の書き方の違い、封筒の書き方)</p> <p>⑬ 12/22 ビジネスマナー④ プレゼンテーション(グループワーク・発表)</p> <p>⑭ 1/12 ビジネスマナー⑤ クレーム対応(グループワーク・発表) ケーススタディ(場面に応じた対応)</p> <p>⑮ 1/19 ビジネスマナー 総まとめ</p>						
テキスト・教材(参考文献含む)	<p>テキストは以下を使用するので購入すること(購入方法は講義中に別途指示します)。</p> <p>有限会社幸プランニング発行 『コミュニケーション&マナー』～自己表現を身につけコミュニケーションを磨く～ 1980円。</p>						
事前・事後学習	<p>予習：毎回テキストをあらかじめ読んでおくこと。</p> <p>復習：毎回の授業で学んだ技術、振り返りの小テストを事後学習すること。</p> <p>留学生はNI向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身に付けておくことが望ましいです。</p>						
成績評価方法	<p>定期試験50% 参加態度および小テスト50%。</p> <p>小テストは講義の振り返りとして課します。</p> <p>また、次回の講義で前回の内容を振り返ります。</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>講義の最後に、講義内容の重点事項を理解度確認のため、小テストをします。</p> <p>解答を明示し解説した後、丸つけ採点をし、小テスト用紙を講義終了後に回収します。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>次回講義の始めに、前回講義内容・小テスト内容の振り返り授業をして理解度・定着度を確認します。</p>						
担当者から一言	<p>ビジネスマナーは、社会で生きていくための必須の資質です。</p> <p>授業は、外部講師による実践的な講義です。</p> <p>「学生時代に先んじてビジネスマナーを学びたい」と思う学生は、意欲的に是非受講してください。</p>						

授業科目名	販売士講座	【実務】	科目コード	172303	授業コード	114113
担当教員	山川 和美		科目ナンバリング	GSHM1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	消費者ニーズが多様化・個性化しています。“消費者が何を求めているのか”ということ、流通業界ではあらゆる手段を用いて模索しています。このような時代にあって注目されているのが流通業界で唯一の公的資格「リテールマーケティング（販売士）」です。この知識・スキルは流通・小売業界で活躍したい人は大変役立ちます。もちろん多様な分野にも活用出来ます。私達にとって親しみのあるコンビニエンスストアなど題材に、お店の売れる仕組みや、マーケティング、店舗運営、売場づくりなど幅広くビジネスの基礎を学びます。					
到達目標	<p>目標は以下の3点です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 流通業界（小売・卸売業）の知識・スキルの基礎を理解する。 ● 店舗の売上・利益が上がる仕組みを理解する。 ● 店舗側の視点で考えることができる人材を目指す。 					
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 講義の概要 第2講 ストアオペレーションのポイント① 第3講 ストアオペレーションのポイント② 第4講 ストアオペレーションのポイント③ 第5講 小売業の類型のポイント① 第6講 小売業の類型のポイント② 第7講 小売業の類型のポイント③ 第8講 マーチャンダイジングのポイント① 第9講 マーチャンダイジングのポイント② 第10講 販売・経営管理のポイント① 第11講 販売・経営管理のポイント② 第12講 販売・経営管理のポイント③ 第13講 リテールマーケティングのポイント① 第14講 リテールマーケティングのポイント② 第15講 まとめ 定期試験</p>					
テキスト・教材（参考文献含む）	なし（必要に応じてプリントを配布します） 【参考文献】日本商工会議所・全国商工会連合会編「販売士3級ハンドブック（2冊セット）」カリアック（2019年）					
事前・事後学習	予習：日頃からテレビや新聞など小売業界に関連したニュースに目を通す。（1日15分） 復習：学んだ内容を復習し、ショッピングセンターやコンビニエンスストアなどに出かけた時に授業の検証に心がけること。（90分）					
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・課題60点、定期試験40点					
授業内の課題・提出方法	課題：毎回の講義で簡単な課題を提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題・提出物は返却しませんが、内容について取りまとめ、適宜授業でフィードバックします。					
担当者から一言	店舗経営の視点でお店の見方が変わり買物が楽しくなりますよ。					

授業科目名	ビジネスコミュニケーション 【実務】		科目コード	172304	授業コード	112401																																																												
担当教員	長野 ゆき子		科目ナンバリング	GSHM1004																																																														
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択																																																												
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。																																																																	
授業のねらい	<p>本科目では、ビジネスコミュニケーションの上級者をめざして、さまざまな技術を実践的に学んでいただきます。</p> <p>経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を2006年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）です。</p> <p>企業人となるためにはこの社会人基礎力が求められます。</p> <p>講義では、とりわけ対顧客を意識した接客技術・説明力・説得力・プレゼンテーションに重点を置いた内容となります。</p> <p>実務経験者で学外の企業研修講師の多彩な話から、企業人としてのコミュニケーションを実践的に学んでいただきます。</p>																																																																	
到達目標	コミュニケーションスキルを実践的に学び 社会で生きるための土台であり必要不可欠である「人間関係作りの基本」を身に付けます。																																																																	
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>①</td> <td>4 / 1 1</td> <td>ガイダンス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>4 / 1 8</td> <td>接客マナー「おもてなし」</td> <td>「おもてなしとマナーの違い」</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>4 / 2 5</td> <td>パフォーマンス学</td> <td>場と関わりの自己表現</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>5 / 9</td> <td>おもてなしの接客技術①</td> <td>第一印象</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>5 / 1 6</td> <td>おもてなしの接客技術②</td> <td>接客力</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>5 / 2 3</td> <td>おもてなしの接客技術③</td> <td>電話・レター・メール</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>5 / 3 0</td> <td>おもてなしの接客技術④</td> <td>社会的ルールとモラル 「コンプライアンス・リスク管理」</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>6 / 6</td> <td>コミュニケーションスキル①</td> <td>心理学TA</td> </tr> <tr> <td>⑨</td> <td>6 / 1 3</td> <td>コミュニケーションスキル②</td> <td>アサーション</td> </tr> <tr> <td>⑩</td> <td>6 / 2 0</td> <td>コミュニケーションスキル③</td> <td>コーチングの基本</td> </tr> <tr> <td>⑪</td> <td>6 / 2 7</td> <td>ビジネススキル①</td> <td>説明力・説得力</td> </tr> <tr> <td>⑫</td> <td>7 / 4</td> <td>ビジネススキル②</td> <td>合意形成</td> </tr> <tr> <td>⑬</td> <td>7 / 1 1</td> <td>ビジネススキル③</td> <td>プレゼンテーションⅠ</td> </tr> <tr> <td>⑭</td> <td>7 / 1 8</td> <td>ビジネススキル④</td> <td>プレゼンテーションⅡ</td> </tr> <tr> <td>⑮</td> <td>7 / 2 5</td> <td>総復習</td> <td>おもてなしの取り組みとは</td> </tr> </table>						①	4 / 1 1	ガイダンス		②	4 / 1 8	接客マナー「おもてなし」	「おもてなしとマナーの違い」	③	4 / 2 5	パフォーマンス学	場と関わりの自己表現	④	5 / 9	おもてなしの接客技術①	第一印象	⑤	5 / 1 6	おもてなしの接客技術②	接客力	⑥	5 / 2 3	おもてなしの接客技術③	電話・レター・メール	⑦	5 / 3 0	おもてなしの接客技術④	社会的ルールとモラル 「コンプライアンス・リスク管理」	⑧	6 / 6	コミュニケーションスキル①	心理学TA	⑨	6 / 1 3	コミュニケーションスキル②	アサーション	⑩	6 / 2 0	コミュニケーションスキル③	コーチングの基本	⑪	6 / 2 7	ビジネススキル①	説明力・説得力	⑫	7 / 4	ビジネススキル②	合意形成	⑬	7 / 1 1	ビジネススキル③	プレゼンテーションⅠ	⑭	7 / 1 8	ビジネススキル④	プレゼンテーションⅡ	⑮	7 / 2 5	総復習	おもてなしの取り組みとは
①	4 / 1 1	ガイダンス																																																																
②	4 / 1 8	接客マナー「おもてなし」	「おもてなしとマナーの違い」																																																															
③	4 / 2 5	パフォーマンス学	場と関わりの自己表現																																																															
④	5 / 9	おもてなしの接客技術①	第一印象																																																															
⑤	5 / 1 6	おもてなしの接客技術②	接客力																																																															
⑥	5 / 2 3	おもてなしの接客技術③	電話・レター・メール																																																															
⑦	5 / 3 0	おもてなしの接客技術④	社会的ルールとモラル 「コンプライアンス・リスク管理」																																																															
⑧	6 / 6	コミュニケーションスキル①	心理学TA																																																															
⑨	6 / 1 3	コミュニケーションスキル②	アサーション																																																															
⑩	6 / 2 0	コミュニケーションスキル③	コーチングの基本																																																															
⑪	6 / 2 7	ビジネススキル①	説明力・説得力																																																															
⑫	7 / 4	ビジネススキル②	合意形成																																																															
⑬	7 / 1 1	ビジネススキル③	プレゼンテーションⅠ																																																															
⑭	7 / 1 8	ビジネススキル④	プレゼンテーションⅡ																																																															
⑮	7 / 2 5	総復習	おもてなしの取り組みとは																																																															
テキスト・教材（参考文献含む）	講義資料・プリントを配ります。また、参考図書として、有限会社幸プランニング発行『コミュニケーション&マナー』～自己表現を身につけコミュニケーションを磨く～1, 980円を購入することが望ましいです。																																																																	
事前・事後学習	<p>予習：次回の講義内容について出された課題を調べておくことです。</p> <p>復習：毎回の授業で学んだ技術と振り返りの小テストを事後学習することです。</p>																																																																	
成績評価方法	<p>定期試験 50% 参加態度および小テスト 50%。</p> <p>小テストは、講義の振り返りとして課します。</p> <p>また、次回の講義で前回の内容を振り返ります。</p>																																																																	
授業内の課題・提出方法	講義の最後に、講義内容の重点事項を理解度確認のため、小テストをします。 解答を明示し解説した後、丸つけ採点をし、小テスト用紙を講義終了後に回収します。																																																																	
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回講義の始めに、前回講義内容・小テスト内容の振り返り授業をして 理解度・定着度を確認します。																																																																	
担当者から一言	この授業は、外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。 オペレーション演習を受講する前提となります。意欲的な学生を期待します。 「ビジネスマナー」を先行して履修していることが望ましいです（必須ではありません）。																																																																	

授業科目名	マーケティング演習	【実務】	科目コード	172308	授業コード	111810	
担当教員	岡 良浩、岩崎 祐子		科目ナンバリング	GSHM1008			
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	<p>この科目では、マーケティングに必要なスキルを実践的に学びます。</p> <p>マーケティングとは、「顧客のニーズに合ったものを、最適な形で提供される市場を作り出すための活動」のことを言います。その内容は様々ありますが、「顧客のニーズは何か」が起点となります。その意味で、マーケティング=市場調査と思っても良いでしょう。</p> <p>ここではMicrosoft Formを用いて、アンケート調査と集計を体験します。単純集計・クロス集計や報告書作成を演習します。</p> <p>この体験を踏まえて、実際の企業を想定した市場調査を考えていただきます。</p>						
到達目標	<p>到達目標は以下の3点です。</p> <p>①市場調査の一連の技法を身につけること (調査票設計→配布→回収→集計・分析→提案)</p> <p>②市場調査の分析結果を発表する能力を身につけること</p> <p>③実際の企業を想定した市場調査を企画できる能力をつけること</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 マーケティングと市場調査の基礎理解</p> <p>第3回 Microsoft Formsの使い方</p> <p>第4回 Microsoft Formsによるアンケートの設計と回答</p> <p>第5回 エクセルを使った単純集計</p> <p>第6回 エクセルを使ったクロス集計</p> <p>第7回 報告書の作成</p> <p>第8回 仮設を設定した市場調査の設計</p> <p>第9回 市場調査の実施</p> <p>第10回 市場調査の集計</p> <p>第11回 報告書の作成</p> <p>第12回 報告書の確認</p> <p>第13回 報告書の発表</p> <p>第14回 市場調査の実際</p> <p>第15回 まとめ</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは特に指定せず、毎回Moodle上に資料を提示します。						
事前・事後学習	<p>予習：配付資料をあらかじめ読んでおくこと。(90分)</p> <p>復習：学んだ技法を復習し、身につけておくこと。(90分)</p>						
成績評価方法	<p>毎回の課題提出 30%</p> <p>報告書および発表 40%</p> <p>定期試験（レポート試験）30%</p>						
授業内の課題・提出方法	毎回、Moodle内で課題を課し提出いただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題は、授業内で適宜参照し、コメントします。その都度、理解度を確認しながらすすめます。						
担当者から一言	<p>原則、コンピュータ室で演習を行います。</p> <p>希望者が多数の場合は抽選になることがあります。</p> <p>欠席すると課題がわからなくなるので、欠席しないでください。</p>						

授業科目名	おもてなし特別講義 a		【実務】	科目コード	172309	授業コード	113407
担当教員	岩崎 祐子、岡 良浩			科目ナンバリング	GSHM1009		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義は、サステナブル経営企業の成功事例を、総合的に理解することを目的とする。おもてなし経営が成功しているのは、個々の技術要素というより、総合力が勝っているからだと思われる。このような総合力を見ることがこの講義のねらいである。企業においては、経営理念や事業目標がどのように企業内に反映されているか、そのポイントはどこにあるかなど、三重県内の経営者層を招聘して伺う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナブル経営の成功事例を理解する。 ・成功事例から、成功の要因や他事業への応用（普遍化）を考察する。 						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 サステナブル経営とは 第3回 外部講師による講義 第4回 外部講師（企業経営者）による講義 第5回 外部講師（企業経営者）による講義 第6回 外部講師（企業経営者）による講義 第7回 授業中レポート 第8回 外部講師（企業経営者）による講義 第9回 外部講師（企業経営者）による講義 第10回 外部講師（企業経営者）による講義 第11回 授業中レポート 第12回 外部講師（企業経営者）による講義 第13回 外部講師（企業経営者）による講義 第14回 企業レポート作成 第15回 企業レポート発表（プレゼンテーション） 定期試験 第4-6, 8-10, 12, 13回 グループワーク、第15回 プレゼンテーション ※日程は変更する可能性があります。 ※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、第1回ガイダンス時に配布します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。 参照資料として三重県「三重のサステナブル経営アワード」のホームページを参照してください。						
事前・事後学習	日頃から、企業経営、サステナブル経営に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください（90分）。						
成績評価方法	授業中に作成するレポート（40%）、グループワーク・発表（30%）、定期試験（30%）により評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業中にレポートを作成します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。						
担当者から一言	ビジネスマナーを重視します。経営者とコミュニケーションをとるため、講演後はグループワークを行ない、経営者に向けて発表を行ないます。多くの経営者との出会いは、これから社会に出る学生にとっていい経験になりますし、就職活動にも役立ちます。						

授業科目名	おもてなし特別講義 b		【実務】	科目コード	172310	授業コード	114815
担当教員	池田 幹男、岩崎 祐子、岡 良浩			科目ナンバリング	GSHM1010		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	様々な情報技術を使用した「おもてなし」サービスの効率化について理解します。また、最後に応用としてデジタルサイネージ向けの短い広告を作成します。						
到達目標	情報技術を利用したサービス産業の効率化について理解する。 PowerPoint を利用した短い広告作成を通じて、情報技術のサービス業での応用実践につなげる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 「おもてなし」と情報技術 第3講 おもてなしとロボット 第4講 おもてなしサービスの事例研究(へんなホテルを中心として) 第5講 観光資源としてのロボット 第6講 インターネットとクラウドシステム 第7講 キャッシュレス決済 第8講 ビッグデータ 第9講 AI (音声合成、音声認識) 第10講 AI (対話システム、翻訳、ディープラーニング) 第11講 デジタルサイネージ 第12講 サイネージ向けコンテンツ作成(1) 第13講 サイネージ向けコンテンツ作成(2) 第14講 サイネージ向けコンテンツ作成(3) 第15講 フリーディスカッション						
テキスト・教材 (参考文献含む)	教材は、教育支援システム (Moodle) を通じて呈示します。						
事前・事後学習	観光産業を中心としたサービス産業や、人工知能・クラウド・ロボットなどの情報通信技術に関するニュースや情報を日常的に調査してください。(毎日30分)						
成績評価方法	授業態度30%、教育支援システムを通じたノート提出やディスカッション 30%、最終レポート40%で採点します。定期試験は実施しません。						
授業内の課題・提出方法	教育支援システム(Moodle)でディスカッションを行い、課題、レポートを提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教育支援システム (Moodle) を通じてフィードバックします。						
担当者から一言	この授業は単なる教員が行う講義ではなくて、皆さんが自ら参加する形式で進めていきます。授業中や教育支援システムを通じたフリーディスカッションへの積極的な参加や発言を期待しています。						

授業科目名	メディアツールa		【実務】	科目コード	172501	授業コード	115203
担当教員	西尾 秀樹			科目ナンバリング	GSMD1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe illustratorを使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。						
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説） 3.描画の基本（図形ツール・レイヤー・カラーパレット など） 4.色の基本（CMYK/RGB・面と線 など） 5.自由曲線1（ベジェ曲線の基本） 6.自由曲線2（下絵をトレースして着色） 7.文字の入力・アウトライン（ロゴタイプ作成） 8.その他ツール（グラフ・フィルター など） 9.Webデータと印刷用データについて 10.画像の配置とレイアウト（Photoshopとの連動） 11.デザインデータ作成時の機能活用について 12.デザイン・レイアウトの実践（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会 						
テキスト・教材（参考文献含む）	実習内容に応じて、教員からデータを配布します。						
事前・事後学習	デザインやレイアウトのヒントや参考は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 意識して眼にするだけでも自分自身の引き出しへの蓄積は変わってきますので、良いと思ったもののストックや自分ならどうするかを考えて接してください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。						
成績評価方法	授業内提出課題の3-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%						
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。						
担当者から一言	思考をグラフィック的に具現化できると表現も広がりますし、将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	メディアツールb	【実務】	科目コード	172502	授業コード	115608
担当教員	西尾 秀樹		科目ナンバリング	GSMD1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Photoshopを使ったグラフィック（画像処理）アプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。					
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本操作（何ができるのか解説） 3. 解像度について（Web/DTPデータの違い・カラーモードなど） 4. 色調整・サイズ調整 5. 選択範囲作成1（画像の切り抜き） 6. 選択範囲作成2（背景変更・合成 など） 7. 画像修正・コラージュ・変形・拡大縮小 8. ペイント・色変換 9. 文字入力・加工 10. illustratorとの連動 11. フィルター・その他ツール 12. デザインの実践（サンプルに基づいてデータ作成） 13. オリジナル作品作成1（自身のスマートフォンで撮影した画像を使用） 14. オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15. 合評会 					
テキスト・教材（参考文献含む）	実習内容に応じて、教員から画像データを配布します。					
事前・事後学習	綺麗な画像や加工された画像は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 [これ面白い画像だな]とか[どうやって作ったんだろう]という気付きが作品の幅を広げますので、眼にした画像から何かを感じる習慣を意識してみてください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。					
成績評価方法	授業内提出課題の4-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%					
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。					
担当者から一言	Webの活用には画像は重要な要素です。画像の加工・修正ができるだけでも使用できる画像は格段に増えます。将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、Webサイト更新・広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	メディアツールc		【実務】	科目コード	172503	授業コード	112103
担当教員	田中 麻衣			科目ナンバリング	GSMD1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業はAdobe Premiere Proを使用し、動画編集技術を学ぶ授業です。						
到達目標	Premiere Proを触ったことがない、編集ソフトを触ったことがない初心者が最終的には映像作品の制作ができるようになることが目標です。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：色んな種類の映像を楽しむ 第3回：Premiere Pro 「初期設定」 第4回：Premiere Pro 「基本操作1」 第5回：Premiere Pro 「基本操作2」 第6回：Premiere Pro 「応用編1」 第7回：Premiere Pro 「応用編2」 第8回：実習1 第9回：実習1（編集） 第10回：実習2 第11回：実習2 第12回：実習2（編集） 第13回：最終課題制作（企画&撮影） 第14回：最終課題制作（編集） 第15回：最終課題制作（編集）						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じてプリントを配布します。						
事前・事後学習	みなさんには映像を制作してもらいます。ですので、どのような映像作品があるか、どのように作品ができているのかを自分なりに考えながら、YoutubeやTVドラマ、CM、映画を一日1本みることを事前準備とします。						
成績評価方法	最終的に一人1作品を制作していただきます。その作品の出来栄と授業に対する意欲、各授業での課題の出来栄などを総合評価し成績を出します						
授業内の課題・提出方法	授業の度に、課題を出します。課題とはどのようなものか例えば、事前学習で見た映像制作に対してのレポートなど。提出は、その日中、または、次回の授業までに提出できる課題を出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバックは、提出してもらい、直接本人と話しをしながら、提出物へのフィードバックとします。また、教師からだけでなく、同じ授業を受けている仲間からのフィードバックをする場合もあります。						
担当者から一言	楽しみながら、一緒に学びましょう。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	メディアツールd		【実務】	科目コード	172504	授業コード	112605
担当教員	柳澤 翔士			科目ナンバリング	GSMD1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義では、Macをつかった音楽制作についてgarageBandや、LogicProXといったアプリケーションを使って第一歩から学びます。						
到達目標	コンピュータを使った音楽制作の基礎知識と、作品制作における技術を身に着ける。						
授業計画	<p>・講義ではMac(GarageBand, Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ガイダンス・基礎知識 2.コンピュータをつかった音楽制作とは 3.音楽の基礎 4.ループ音源を組み合わせる1※ 5.ループ音源を組み合わせる2※ 6.楽譜を音にする1※ 7.楽譜を音にする2※ 8.エフェクトとは 9.MixDownとは※ 10.生音の加工1※ 11.生音の加工2※ 12.効果音の世界1※ 13.効果音の世界2※ 14.音作品製作1※ 15.音作品制作2※ <p>定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>データ保存用にUSBメモリーや外付けSSD(16GB USB3.0規格以上推奨)を必ず用意してください。</p> <p>必要な資料は適時配布します。</p>						
事前・事後学習	<p>実習ではMacを使用します。Windowsとは操作が異なるので、Mac教室(5201)で実際に使用して予習を行ってください。授業中にできなかった課題をすることで、早く慣れる事ができるでしょう(90分)</p> <p>音楽をしっかり聴きこみ、どういう音で構成されているのかというのを気にしておく事。分析しながら曲を聴きこむ(90分)</p>						
成績評価方法	<p>受講態度30%(課題に取り組む姿勢・受講の態度)</p> <p>作品提出30%</p> <p>レポート・定期試験40%</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>学内サーバーの指定フォルダに提出</p> <p>授業外では、Moodleやメールを利用。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>講評が必要なものは、当日・翌週に講評。</p> <p>質問などのフィードバックは適時行う。</p>						
担当者から一言	<p>音楽制作は難しいイメージがありますが、第一歩から音楽制作を学びます。</p> <p>共に音楽を学びましょう。</p> <p>※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。</p>						

授業科目名	Webデザインa		【実務】	科目コード	172505	授業コード	111605
担当教員	堀内 敬弘			科目ナンバリング	GSMD1005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業ではWebデザインに必要なツール「Adobe Illustrator」を主に用いたデザインワークの学習を行います。一連のプロセスを学習し、業界のワークフローの根幹に触れることで業界への関心を高めてもらうことがこの授業の狙いです。						
到達目標	この授業では、学生諸君がWebデザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、イラストレーターを用いた簡易的なWebサイトデザイン操作ができるようになる事を到達目標としています。						
授業計画	<p>Macを用いた演習を行います。</p> <p>第1講 <ガイダンス> 先生の自己紹介/今後の講義内容、試験について/今、WEBデザインに求められていること/体験してみよう</p> <p>第2講 Web デザインとは /Web サイトの構造 第3講 実践の準備をしよう / Adobe Illustrator 基本演習 (1) 第4講 Adobe Illustrator 基本演習 (2) 第5講 Adobe Illustrator 基本演習 (3) 第6講 Adobe Illustrator 基本演習 (4) 第7講 Adobe Illustrator 基本演習 (5) 第8講 Adobe Illustrator 基本演習 (6) 第9講 Adobe Illustrator 基本演習 (7) 第10講 Adobe Illustrator 基本演習 (8) 第11講 Adobe Illustrator 基本演習 (9) 第12講 Adobe Illustrator 基本演習 (10) 第13講 Adobe Illustrator 応用演習 (1) 第14講 Adobe Illustrator 応用演習 (2) 第15講 Adobe Illustrator 応用演習 (3)</p>						
テキスト・教材 (参考文献含む)	特になし						
事前・事後学習	毎講義ごとに行った操作方法やショートカットキーなどをその場でメモしていただき、復習しておくこと						
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時に教える操作方法やショートカットキーの理解度及び受講態度：20% ・全授業終了後に提出する課題の提出状況及びクオリティ・理解度：80% ・定期試験：定期試験はありません 						
授業内の課題・提出方法	<p>提出物：講義を通して作成する基礎演習データおよび応用演習データ</p> <p>提出方法：講義時にデータにて提出</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	成績登録にてフィードバック						
担当者から一言	<p>本講義はメディアツールaの事前受講が前提となっております。メディアツールaを受講し、よりデザインの業界へ興味のある学生は是非受講してみてください。</p> <p>先生と一緒にデザインの難しさも達成感も全て楽しみながら授業しましょう。</p>						

授業科目名	Webデザインb	【実務】	科目コード	172506	授業コード	111209	
担当教員	堀内 敬弘		科目ナンバリング	GSMD1006			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業ではWebデザインaで学習したデザインツールのスキルを活かしてより実際の現場に近いWebデザイン業務を疑似体験しながらデザインまでのプロセスをチーム（コロナウイルスの感染状況や受講人数により個人で行う場合もございます。）で学びます。						
到達目標	この授業では、学生諸君がWebデザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、簡易的なWebサイトデザインができるようになる事を到達目標としています。						
授業計画	<p>Macを用いた演習を行います。</p> <p>第1講 ガイダンス 最新Webデザインのトレンド / お気に入りのWEBサイト集め</p> <p>第2講 チーム決めと架空クライアントによる要望の発表とコンセプトメイキング</p> <p>第3講 ワイヤフレーム制作①</p> <p>第4講 ワイヤフレーム制作②</p> <p>第5講 デザイン制作①</p> <p>第6講 デザイン制作②</p> <p>第7講 デザイン制作③</p> <p>第8講 デザイン制作④</p> <p>第9講 デザイン制作⑤</p> <p>第10講 デザイン制作⑥</p> <p>第11講 デザイン制作⑦</p> <p>第12講 デザイン制作⑧</p> <p>第13講 デザイン制作⑨</p> <p>第14講 プレゼンテーション準備</p> <p>第15講 プレゼンテーション/投票・評価/まとめ</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	特になし						
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎講義ごとに行った操作方法やショートカットキーなどをその場でメモしていただき、復習しておくこと ・インターネットを用いて、WEBデザイン参考サイトなど制作に必要な資料のリサーチ、ストック 						
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム制作時における協調性や積極的な態度：30% ・全授業終了後に提出する課題の提出状況、プレゼンカ、及びクオリティ・理解度：80% ・定期試験：定期試験はありません 						
授業内の課題・提出方法	<p>提出物：講義を通して作成する基礎演習データおよび応用演習データ</p> <p>提出方法：講義時にデータにて提出</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	成績登録にてフィードバック						
担当者から一言	<p>Webデザインaを受講済みの学生のみ履修できます。</p> <p>Webデザインの授業の集大成でもあります。Webデザインaで学習したデザインスキルを活かしてチームで1つのWebページのデザインキャンプを作り上げる大変さと楽しさを体験しましょう。</p>						

授業科目名	インターネット論	【実務】	科目コード	172509	授業コード	112406	
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GSMD1009			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持つておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。						
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。						
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ 1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります						
テキスト・教材（参考文献含む）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ¥2300+税						
事前・事後学習	テキストでの予習(90分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)						
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。						
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。Web技能検定3級レベルの知識を得られるような講義を目指す。						

授業科目名	行政法	【実務】	科目コード	471205	授業コード	115803	
担当教員	小林 慶太郎、中西 紀夫		科目ナンバリング	PPT2002			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献できる人材になる。						
授業のねらい	<p>この授業では、行政と法の関係について扱っていきます。行政の様々な活動は、様々な法的な規範によって規定されています。</p> <p>講師として、現在四日市市の職員として働いている本学卒業生（清水さん、中村さん、室田さん、田端さん）にも登壇いただき、行政の最前線で、法的な規範がどのように使われているか、お話をいただきます。将来、公務員になることを考えている学生はもちろんのこと、民間企業に就職する学生も、私たちの生活が、いかに法的な規範とは切っても切れない関係にあるのか学び取ってくれることを、ねらいとしています。</p>						
到達目標	法的な規範の効力や意義を知り、日常生活においても法的な規範の存在を意識できるようになることが、この授業の到達目標です。						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス～「行政法」について～（小林）</p> <p>第2講 法学の中の行政法（中西）</p> <p>第3講 法令と条例（小林）</p> <p>第4講 四日市市の産業と法規制（清水）</p> <p>第5講 選挙活動と公職選挙法（中村）</p> <p>第6講 都市計画と法律（清水）</p> <p>第7講 公共施設の指定管理（中村）</p> <p>第8講 新型コロナウイルス対策と法（清水）</p> <p>第9講 夜の街と法規制（室田）</p> <p>第10講 生活保護行政と法（室田）</p> <p>第11講 市民協働を促進するための条例（室田）</p> <p>第12講 文化行政と法（田端）</p> <p>第13講 観光・シティプロモーションと法（中村）</p> <p>第14講 公営ギャンブルと法（清水）</p> <p>第15講 行政・まちづくりと法規範（小林）</p> <p>定期試験（レポート提出）</p> <p>※ 講師の都合や新型コロナウイルスの影響などにより、日程や内容が変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使いません（必要に応じて資料を配布する場合があります）						
事前・事後学習	日頃からテレビや新聞の地域・行政に関するニュースに目を通すこと（毎日30分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは、授業中に紹介する参考文献等で調べておくこと（60分）。						
成績評価方法	<p>欠席4回以上の者には、原則、単位は与えません。なお、課題・宿題の提出内容が著しく酷い場合や、授業中に寝ているなど受講態度が悪い場合には、欠席扱いとすることがありますので注意してください。成績は以下の配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取組姿勢および講義時に指示する簡単な課題の提出状況：75% ・ 定期試験（レポート）：25% 						
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に対しては、以降の講義でコメントします。						
担当者から一言	<p>学問としての行政法だけではなく、実際の行政・まちづくり活動の視点から、法について講義を行います。</p> <p>※ 本科目は三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格の認定科目です。</p>						

授業科目名	環境社会学		【実務】	科目コード	471214	授業コード	115605
担当教員	村田 静昭			科目ナンバリング	PCD2006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	人類は、優れた科学技術を生み出し大量の資源とエネルギーを使うことで、今ある安全・快適・便利な生活を享受してきました。しかしこのような光に照らされた繁栄に対する闇の側面として、自らが地球に働きかけた結果として生じた環境破壊が未来に深刻な影を落としています。授業では現在も継続・複雑化している環境破壊について学び、被害の軽減と新たな発生を防ぎ繁栄を持続・拡大させていくための知識を学びます。						
到達目標	公害を始めとする環境破壊の歴史（原因・広がり・加害者/被害者などの変遷）を知る。環境破壊抑制への取り組みと成果の歴史について理解する。 現在進行中で今後も拡大し得る環境破壊について回復と抑制を考察する。 より良い生活の獲得といった視点から環境破壊と開発とのバランスを考察する。 新たな環境破壊の発生について考え、未然抑止に必要な知識やプロセスを考察する。						
授業計画	第 1 講 ガイダンス （快適な環境とはどのようなものか） 第 2 講 環境破壊の歴史 1 公害の発生源・被害とその変遷 第 3 講 環境破壊の歴史 2 公害の背景にある時代的・社会的背景とその変遷 第 4 講 環境破壊の歴史 3 ローカルからグローバルへと被害の拡大と変遷 第 5 講 環境破壊の歴史 4 時間と世代を超えた被害の拡大 第 6 講 人類生存の脅威 1 淡水の確保 第 7 講 人類生存の脅威 2 疾病との戦いと葉 第 8 講 人類生存の脅威 3 食料と農業 第 9 講 人類生存の脅威 4 気候変動 第 10 講 便利で安全な生活を支える新材料 1 有機塩素化合物 第 11 講 便利で安全な生活を支える新材料 2 合成樹脂・合成繊維 第 12 講 科学技術の光と闇 第 13 講 未来への責任 1 地球温暖化との戦い 第 14 講 未来への責任 2 使う責任/使わない責任 第 15 講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。参考書として次の本を上げておきます。 「地図とデータで見る資源の世界ハンドブック」ベルナデット・メレンヌ=シュマルケル著、蔵持不三也訳 原書房 2022年						
事前・事後学習	授業では皆さんとのディスカッションをできるだけ取り入れていきます。授業中に課題を出しますので次回の授業にはレポートとして提出してください。一部の学生さんには授業中にその内容を発表してもらいディスカッションします。この授業では日々の生活そのものも教材になりますから、授業中に扱った内容だけでなく関連するニュースや話題にも注意を払い考察を深めそれを自分の言葉（口頭・文章）で説明できるように心がけて下さい。						
成績評価方法	授業中での口頭による課題発表とレポート提出 50%・・・授業中に解説します 定期試験 50%・・・終了後講評します						
授業内の課題・提出方法	課題・提出方法・締め切りなどはその都度パワーポイントスライドにて伝えます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に関するコメントはその一部を授業時間中に説明します。						
担当者から一言	四日市市には四日市ぜんそくの克服に取り組んだ貴重な歴史があります。現在深刻化している環境問題に取り組むためにこのような歴史を学びます。関連してSDGsやCSRについても言及します。授業では高等学校における化学・物理・生物の基本的な内容が出てきますが、分からないことがあったらその場で質問してください。						

授業科目名	食とまちづくり		【実務】	科目コード	471216	授業コード	115609
担当教員	小林 慶太郎			科目ナンバリング	PCP2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	この授業では、食とまちづくりについて扱っていきます。近年、まちづくりとの関係から注目されるようになってきている食文化。この授業では、食文化を通じたまちづくりの可能性について、各地域の食文化や取り組みの違いについて探求したり、実際の食を通じたまちづくり活動の現場を体験したりすることを通じて学びます。学生諸君が、まちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。						
到達目標	この授業では、学生諸君が、まちづくりの実際を知ることを経て、まちづくりについての自分なりの考え方を身につけることを、到達目標としています。						
授業計画	第1講 ガイダンス：まちづくりとは何だろう 第2講 四日市の特徴と魅力（グループワーク） 第3講 四日市の魅力を伝えるために（グループワーク） 第4講 食文化の多様性と地域 第5講 食と6次産業化 第6講 食と観光 第7講 食によるまちづくり 第8講 四日市とんてきと四日市 第9講～第14講 実習 東海北陸B-1グランプリin四日市（今秋開催予定、2日間）へのスタッフとしての参加を、授業6回分としてカウントする 第15講 食によるまちづくりの課題と可能性（グループワーク） 定期試験（レポート提出） ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし（必要に応じて資料を配布する場合があります） 【参考文献】 依慎一「B級ご当地グルメでまちおこし」学芸出版社（2011年）、1,900円＋税						
事前・事後学習	日頃から食やまちづくりに関するテレビや新聞のニュースに目を通すこと（90分/週）。ご当地グルメなどの食に関する情報を積極的に収集すること（90分/週）。						
成績評価方法	3分の1以上欠席した学生には、原則として単位は与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・実習への取組姿勢：48% ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況：27% ・定期試験（レポート）：25%						
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。						
担当者から一言	履修希望者は、前学期中に開催する事前説明会に必ず出席するようにしてください。 なお、実習に参加できない学生は、出席要件を満たせないため、単位を取得できません。 履修する以上は、必ず参加するようにして下さい						

授業科目名	祭りとまちづくり	【実務】	科目コード	471217	授業コード	112403	
担当教員	岩崎 恭典、浅井 雅		科目ナンバリング	PCO2003			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。 幅広い人間力を身につける。						
授業のねらい	地域の文化は、そこに生活する人々によって育まれている。しかし、高齢化や生活様式、価値観の多様化、そして、特にコロナ禍により、伝統文化の継承は、危機に瀕している場合が多い。 この講義では、「大入道山車」（三重県指定有形民俗文化財）、富田の鯨船行事（ユネスコ文化遺産）、桑名・石取祭を事例として、伝統文化の保存・継承には、どのような課題があるか、保存・継承の持つ意味を、実際に祭りや保存活動に参加することにより、考えてもらおうとするものである。						
到達目標	講義と実習を通じて、祭りの持つ意味と、祭りの果たす地域統合の役割について学び、自分自身がこれからの地域社会で何ができるのかを明確にすることを到達目標とする。						
授業計画	第1講 ガイダンス、詳細な講義・実習計画の説明 第2講 都市祭礼とは何か（浅井、岩崎） 第3講 都市祭礼とまちづくり(浅井、岩崎) 第4～8講担当者...前田憲司氏（芸能評論家）+岩崎 第4講 四日市祭の歴史 第5講 四日市祭の現在 第6講 四日市祭の課題 第7講 保存継承の問題点と今後の課題 I 第8講 保存継承の問題点と今後の課題 II 第9講 岩戸山山車の復活 講義（岩戸山保存会会長） 第10講 大入道山車の保存継承上の課題 講義（大入道保存会会長） 第11講 富田鯨船の保存継承上の課題 講義（富田鯨船中島組会長） 第12講 桑名石取祭りの保存継承上の課題 講義(桑名堤原祭車保存会会長) 第13講 祭りの魅力について 講義(弥な屋店主) 第14講 ここまでのまとめと実習の班分け（浅井、岩崎） 第15-1講 現地実習① 7月23日 日曜日 午前 大入道の組み立てへの参加(岩崎引率) 第15-2講 現地実習② 8月6日 日曜日 終日 大四日市祭 岩戸山山車、勢州丸鯨船、大入道山車、その他の山車の演技への参加(浅井、岩崎引率) 第15-3講 現地実習③ 8月6日 日曜日 終日 桑名・石取祭り参加(岩崎引率) 第15-4講 現地実習④ 8月14・15日 終日 富田鯨船行事参加(岩崎引率) 後日、レポートを提出のこと						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。必要に応じてレジメを出す。						
事前・事後学習	講義期間中については、専門家による講義もあるので、前回までの講義内容の復習をしておくことが必要である。 実習期間までに、間があるので、講義内容は実習までに復習しておくこと。 また、形態の異なる4つの実習に参加するので、それぞれについて、復習が必要である（1日30分）。						
成績評価方法	成績評価については、組立実習や祭りなどへの取り組み意欲（50%）、レポート（A4版3枚以上）の評価（50%）により行う。						
授業内の課題・提出方法	講義に際しては、課題に即した小レポートあるいは「大福帳」による感想のどちらかを毎回授業時間内に提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、「大福帳」については、次の授業時に振り返りを行いつつ、次の授業時に返却する。期末のレポートについては、返却を希望するものは、9月以降、申し出ること。						
担当者から一言	この講座は、四日市市中納屋町大入道保存会のご協力を得て過去15年にわたって開講しているものである。この間、多くの山車保存会が授業の場の提供を申し出ている。地域の祭りに主体的に参加してみようとする学生諸君の参加を望むところである。						

授業科目名	音楽とまちづくり	【実務】	科目コード	471218	授業コード	114510
担当教員	鬼頭 浩文、前川 督雄		科目ナンバリング	PCO2006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる					
授業のねらい	四日市市では、「街は劇場、通りは舞台 主役はあなた♪」の合言葉のもと、2012年から、市民ボランティアが中心になって「四日市JAZZフェスティバル」が開催されています。この授業では、「四日市JAZZフェスティバル」を通じて街のにぎわいを創り出そうと取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞いたり、実際に現場に出かけて行ってボランティアスタッフとしてこの活動のお手伝いをしたりする予定です。学生諸君が、音楽イベントを通じたまちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。					
到達目標	音楽フェスの運営方法を実践的に学ぶとともに、音楽をまちづくりにつなげる仕組みや市民の活動について学び、ここで得た知識を使って、将来地域社会で活躍できる人材になることが目標である。					
授業計画	<p>第1講 (9/28) ガイダンス (鬼頭・前川)</p> <p>第2講 (10/5) JAZZフェスとまちづくり (実行委員長柳川さん) ①</p> <p>第3講 (10/12) イベントに向けた心構えと詳細打ち合わせ (実行委員会 山川さん、鬼頭・前川) ② (10/19は休みです)</p> <p>第4～6講 (10/21) 現地実習 (イベントの見学・スタッフ参加を3コマとしてカウント)</p> <p>第7～10講 (10/22) 現地実習 (イベントにスタッフとして参加=4コマとしてカウント)</p> <p>第11講 (10/26) 四日市JAZZフェスティバルの会場設営 (実行委員会 堀木さん) ③</p> <p>第12講 (11/2) 四日市JAZZフェスティバルの経費と協賛 (実行委員会 阪さん) ④</p> <p>第13講 (11/9) 四日市JAZZフェスティバルの発信とメディア (実行委員会 山川さん) ⑤</p> <p>第14・15講 (11/16・23) 人間と音、まつりによる伝統的共同体の組織化、環境音とまちづくりの内容を2コマで (前川) ⑥⑦ (11/30以降は予備日)</p> <p>定期試験 (レポート提出) ※都合により講義計画が変更になる可能性があります。掲示等を見て注意するようにしてください。なお、現地実習を遅刻・欠席した者には、クラブの試合等が理由であっても、原則として単位は与えません。忌引きや伝染病などの公欠にあたる理由が発生した場合は、課題などで代替することを検討します。</p>					
テキスト・教材 (参考文献含む)	JAZZフェスのパンフレットと配布資料					
事前・事後学習	座学は必ず講義を1時間ほどかけて振り返り、7回の小レポートに取り組むこと。また、フィールドワークについて、記憶が消えないうちにパンフレットを見ながらイベントを数時間かけて振り返ること。					
成績評価方法	現地実習に取り組む姿勢・パフォーマンス30%、講義で課す課題40% (①～⑦)、定期試験 (レポート) 30%で総合評価する。					
授業内の課題・提出方法	7回の課題を提出してもらう					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントを学生に返す					
担当者から一言	最も重要な現地実習に参加できない学生は、単位の修得が極めて困難になります。					

授業科目名	鉄道とまちづくり		【実務】	科目コード	471219	授業コード	112705
担当教員	岩崎 恭典			科目ナンバリング	PCO2007		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。 幅広い人間力を身につける。						
授業のねらい	<p>自動車が移動手段として普通となっている北勢地域であるため、どの鉄道会社も、通勤・通学客の減少によって、苦境にあることは事実である。</p> <p>では、このまま、鉄道は消え去る運命にあるのだろうか。</p> <p>この講義では、今後の超高齢社会のなかでは、必要性が高まるに違いないはずの鉄道事業者たる三岐鉄道を素材として、その経営戦略を具体的に学ぶとともに、地域社会はどうあるべきか、公共交通体系はどうあるべきか、そのためには、企業とともに我々住民はどうあるべきかを、具体的に学ぼうとするものである。</p>						
到達目標	この講義を通じて、公共交通の重要性を知るとともに、そのために住民としてどう行動すべきかを知り、また、鉄道の利用者増を目指したさまざまなイベントのノウハウを取得することも到達目標とする。						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 開講の狙い 三岐鉄道の経営戦略 講義 (担当者...岩崎)</p> <p>第2講 10月1日・日曜日を予定 現地見学 北勢線・三岐線を実際に乗り回し、ボランティア運営による施設 (軽便鉄道博物館、庭箱バス、貨物鉄道博物館等)、東員駅のCTC等を見学する</p> <p>第3講 乗り回しツアーの感想・意見交換会</p> <p>第4講 鉄道とまちづくり 北勢地域の鉄道 講義 (岩崎)</p> <p>第5講 三岐鉄道の鉄道事業概要 講義 (㈱三岐鉄道鉄道部長及び担当者)</p> <p>第6講 コミュニティバスと鉄道との連携について 講義 (東員町担当者)</p> <p>第7講 養老鉄道の場合 講義 (㈱養老鉄道取締役)</p> <p>第8講 個別研究のテーマ出し</p> <p>第9講 テーマ別の研究班編成</p> <p>第10講 研究班ごとのグループワーク</p> <p>第11講 研究班ごとのグループワーク</p> <p>第12講 サンタ電車運行準備</p> <p>第13講 サンタ電車運行準備</p> <p>第14講 12月23日・土曜日を予定 北勢線サンタ電車運行</p> <p>第15講 グループワーク成果報告会・反省会、レポート提出</p>						
テキスト・教材 (参考文献含む)	教材は、コピーにて配布する。希望者には、(㈱三岐鉄道・四日市大学総合政策学部編「地域活性化に地方鉄道が果たす役割-三岐鉄道の場合」(2008年9月、交通新聞社)を貸し出す。						
事前・事後学習	地方鉄道の苦境、特に近隣のあすなろう鉄道や養老鉄道、伊賀鉄道の動向を伝える新聞記事、ネット情報を収集しておくように。イベント企画や事例研究の際に役立つであろう(1日30分)。						
成績評価方法	成績評価は、研究テーマへの取り組み意欲(50%)、成果報告のプレゼンテーション結果の評価(50%)により行う。						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義については「大福帳」を、現地視察やサンタ電車の運行を含むフィールドワークについては、レポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートについては、成績評価終了後に、希望者に返却する。毎回の講義については、「大福帳」を通じてフィードバックを行う。						
担当者から一言	この講座は、(㈱三岐鉄道と沿線自治体の全面的な協力により実施されるものです。実際に、三岐鉄道の事業に触れて、鉄道の存続に賭ける社員や公務員の情熱を感じて下さい。講義、実習、ゼミ形式と様々な形式で行われますから、特に日程に注意するように。						

授業科目名	NPO論		【実務】	科目コード	471222	授業コード	115401
担当教員	小林 慶太郎、鬼頭 浩文			科目ナンバリング	PCO2005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	<p>この授業では、市民とまちづくりについて扱っていきます。まちづくりの担い手として注目されている市民。市民とはいったいどのような人々で、実際にどのような取り組みを行っているのでしょうか。</p> <p>この授業では、実際にまちづくりに携わっている市民の話も聞きながら、市民による取り組みの可能性や実情について学んでいきます。</p> <p>学生諸君が、まちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取り、将来まちづくりを担う人としての資質を磨いてくれることを、ねらいとしています。</p>						
到達目標	この授業では、学生諸君が、まちづくりの実際を知ることを経て、まちづくりについての自分なりの考え方を身につけることを、到達目標としています。						
授業計画	<p>第1講 (小林) ガイダンス (授業の進め方)</p> <p>第2講 (小林) 「市民」とは何か</p> <p>第3講 (小林) NPOと市民活動</p> <p>第4講 (鬼頭) 四日市JAZZフェスティバルとは</p> <p>第5講 (鬼頭) 市民によるイベント運営</p> <p>第6講 (鬼頭) 四日市JAZZフェスティバルと四日市大学</p> <p>第7講 (鬼頭) イベント実施の波及効果</p> <p>第8講 (鬼頭) ボランティアのすゝめ</p> <p>第9講 (鬼頭) ボランティアセンターを活用しよう</p> <p>第10講 (小林) まちおこしと市民活動団体</p> <p>第11講 (小林) 四日市とんてき協会の取り組み</p> <p>第12講 (小林) B-1グランプリとは何か</p> <p>第13講 (小林) 津ぎょうぞ小学校の取り組み</p> <p>第14講 (小林) 松阪・亀山・名張のまちおこし団体の取り組み</p> <p>第15講 (小林) 市民活動にチャレンジしてみよう (まとめ)</p> <p>※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材 (参考文献含む)	テキストは使いません (必要に応じてプリントを配布する場合があります)。						
事前・事後学習	<p>日頃から地域やまちづくりに関するテレビや新聞のニュースに目を通すこと (90分/週)。</p> <p>ボランティアなどの市民の取り組みに関する情報を積極的に収集すること (90分/週)。</p>						
成績評価方法	<p>3分の1以上欠席した学生には、原則として単位は与えません。成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義時に指示する簡単な課題の提出状況 : 60% ・ 定期試験 (レポート) : 40% 						
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。						
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	スポーツ栄養学		【実務】	科目コード	471310	授業コード	113608
担当教員	櫻井 智美			科目ナンバリング	PSB2007		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者に必要なスポーツ栄養学の基礎的知識を習得し、アスリートのパフォーマンス向上等をサポートできる栄養管理の理解を深める。						
到達目標	スポーツ栄養学の基礎知識を習得し、そのことについて説明できるようになる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 エネルギー産生栄養素（糖質・脂質・たんぱく質） 第3講 ビタミン・ミネラル 第4講 スポーツ選手の基本の食事 第5講 トレーニングとエネルギー消費量 第6講 スポーツ選手の身体組成 第7講 熱中症の予防と水分補給 第8講 目的別の食事 第9講 試合前後の食事 第10講 トレーニング時の食事 第11講 競技者に多く見られる栄養障害・女性アスリートの三主徴 第12講 サプリメントとエルゴジェニックエイド 第13講 ジュニア期の栄養管理 第14講 競技者の栄養教育のすすめ方 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義内容に沿った資料の提供 <参考文献> 公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅲ（公益社団法人 日本スポーツ協会） 新版コンディショニングのスポーツ栄養学 樋口満編著（市村出版） スポーツ栄養学 鈴木志保子著						
事前・事後学習	予習として、次の講義に際する内容を調べる。予習のための課題を課す場合がある（90分）復習として講義内容の資料等の見直し（90分）						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 講義時に指示する簡単なレポート課題の提出状況および受講態度：50% 定期試験：50%						
授業内の課題・提出方法	授業内に課題レポート用紙を配布。授業の最後に提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物等は、次項講義の際返却する。						
担当者から一言	遅刻や授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用などは、原則禁止します。これらの事が守れない者には、退室を命じ、欠席扱いと致します。オンデマンド型授業の際は、レポート課題の提出期限を遵守してください。						

授業科目名	介護予防スポーツ	【実務】	科目コード	471316	授業コード	115204
担当教員	池田 裕美子		科目ナンバリング	PHH2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。					
授業のねらい	<p>この授業のメインテーマは「地域社会と介護予防運動」です。</p> <p>現在、社会的問題にもなっている介護や認知症に関する知識を深め、介護現場は勿論、日常の運動不足解消など、様々な場面で活用することが出来る「介護予防運動・体操（元氣ダンス）」を習得します。</p> <p>具体的には、地域社会における介護予防の必要性、介護に関する基本的な知識や、高齢者が運動するうえで注意すべきこと、ダンスを実施するうえで必要なリズムの知識や指導方法などを学び、それらを生かし実際に体を動かして「元氣ダンス」の実技を行います。</p>					
到達目標	講義過程を通じて、運動・音楽・介護予防・地域社会などについての知識を深めること。日本介護予防ダンス協会公認「学生3級ゼネラルアドバイザー」資格を取得することを目標とします。					
授業計画	<p>第1講 学科① ガイダンス</p> <p>第2講 学科② 現代社会における「元氣ダンス」</p> <p>第3講 学科③ 色々な音楽・リズム(学科)</p> <p>第4講 学科④ 地域と介護予防</p> <p>第5講 学科⑤ 危険予測・回避・処置(学科)</p> <p>第6講 学科⑥ 学科総合</p> <p>第7講 講演 この地域での介護予防【講演】</p> <p>第8講 実技① 元氣ウォームアップ・元氣ベーシック(実技)</p> <p>第9講 実技② 元氣マンボ・元氣クールダウン(実技)</p> <p>第10講 実技③ 元氣ダンス指導法Ⅰ(実技)</p> <p>第11講 実技④ 元氣ダンス指導法Ⅱ(実技)</p> <p>第12講 実技⑤ 元氣ダンス指導法Ⅲ(実技)</p> <p>第13講 実習【交流実習】</p> <p>第14講 試験 実技試験</p> <p>第15講 試験 学科試験</p>					
テキスト・教材（参考文献含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 日本介護予防ダンス協会出版「ゼネラルアドバイザー教本」 2015年発行 *テキストを購入しない場合は授業をうけることが出来ません。 ・プリント 必要に応じて配布します。 					
事前・事後学習	<p>地域包括ケア、高齢者の健康に関わるニュース等に関心を持ち積極的にチェックして下さい。（1日20分以上）</p> <p>毎回の講義内容の復習。特に実技内容は反復練習を望みます。（20分）</p>					
成績評価方法	<p>授業への積極性 30%</p> <p>毎回の小テスト・小レポート 30%</p> <p>実技試験・定期試験 40%</p> <p>授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。</p>					
授業内の課題・提出方法	毎回、その日の授業内容に応じた小テストを行い、翌週の授業で解答の説明を行います。実技に関しては動画を使うなどして復習をしてもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎回の小テスト、実技動画などを使用し、不得意分野を確認・改善出来るようにしていきます。					
担当者から一言	<p>学科も実技も参加型の授業です。</p> <p>「ダンス」とはありますが、音楽に合わせて身体を動かす「運動・体操」となりますので、技術は必要ありません。</p> <p>遅刻・授業中の中座・私語・飲食などは原則禁止しますが、明るく楽しく授業への積極性を求めます。</p>					

授業科目名	起業論	【実務】	科目コード	471419	授業コード	114112
担当教員	岡 良浩		科目ナンバリング	PBM2010		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。					
授業のねらい	<p>この講義では起業家精神（アントレプレナーシップ）を養うための講義と演習を行います。</p> <p>起業家精神とは、事業を起こす可能性を追求する能力のことです。このような能力は、例えば暗記したり学説を理解したりする能力とは全く異なり、創造的思考が必要です。まずアントレプレナーシップの事例を学びます。次に創造的思考の技法を学びます。最後に、ソーシャルビジネスを事例に、これらがどのような共通の発想で成り立っているかを理解したうえで、自らビジネスモデルの立案を試みます。</p>					
到達目標	<p>以下の3つを掲げています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.アントレプレナーシップが事業者にどのように活用されているかを理解する。 2.創造的思考の技法を身につける。 3.自ら事業企画を立案する。 					
授業計画	<p>第1講 4/13ガイダンス</p> <p>第2講 4/20アントレプレナーシップと事業事例 1</p> <p>第3講 4/27アントレプレナーシップと事業事例 2</p> <p>第4講 5/11アントレプレナーシップと事業事例 3</p> <p>第5講 5/18創造的思考実習 1（ブレーンストーミング/KJ法）</p> <p>第6講 5/25創造的思考実習 2（ソーシャルビジネスの企画立案）</p> <p>第7講 6/1企画立案のフィードバック</p> <p>第8講 6/8ビジネスプランコンテスト</p> <p>第9講 6/15事業計画の構成 1（総論）</p> <p>第10講 6/22事業計画の構成 2（ファイナンス）※ 1</p> <p>第11講 6/29ビジネスモデル立案の実習 1</p> <p>第12講 7/6ビジネスモデル立案の実習 2</p> <p>第13講 7/13ビジネスモデルのフレームワーク</p> <p>第14講 7/20ビジネスプランコンテスト ※ 1</p> <p>第15講 7/27まとめ</p> <p>※ 1 は、株式会社三十三総研が提供する授業です。</p> <p>※日程・内容などは変更する場合があります。</p>					
テキスト・教材（参考文献含む）	特に使用しません。講義中に適宜プリントを配布します。					
事前・事後学習	<p>参考文献は講義中に示します。事前に学習してください（90分）。</p> <p>報告や小レポートの提出を求めますので自宅で行ってください（90分）。</p>					
成績評価方法	<p>課題への取り組み（50%）学期末のレポート試験（50%）</p> <p>提出された課題は、講義中にコメントをします。</p>					
授業内の課題・提出方法	講義中に課題を課します。教学ポストに提出することを予定しています。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題は、コメントをつけて講義中に返却します。また事業計画の構想については、適宜、講義中に公表して参考とします。					
担当者から一言	この授業を通じてビジネスプランが完成すれば、株式会社三十三総研のビジネスプランコンテストに応募していただきます。是非、応募をめざしてください。					

授業科目名	出版文化論	【実務】	科目コード	471504	授業コード	112404
担当教員	稲葉 年計		科目ナンバリング	PCF2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。					
授業のねらい	<p>本授業では、出版文化の基本として、まずは現代日本の文学を見ていくこととなります。</p> <p>時代時代の諸所の文学的な作品を通じて、人々と社会の関係の上で何が表現されているかを考えます。文学やサブカルを通じての現代社会の捉え方を学んでいきます。そうした現代の社会背景を把握した上で、現在の出版文化や出版メディアの位置づけを、小さな出版社をつくる実践例を見ることで理解します。文学と出版文化を通じて、現代の文化や社会の仕組みを考えます。</p>					
到達目標	<p>全体性に留意しつつ、現代社会を考えることができること。</p> <p>文学と経営を通じて、社会を深く把握すること。</p> <p>できるだけ授業において、考える力や学ぶ力を養いたい。授業では出席カード裏で講義ごとに感想や意見を書いてもらい、出席の確認をするとともに、コミュニケーションをとっていくこととなる。よって、考え、理解し、意見する力を身に付けること。</p>					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 1960年代の文学の展開（松本清張・三島由紀夫）——全体性の喪失—— 3. 三島由紀夫『美しい星』 4. 三島由紀夫『美しい星』 5. 東浩紀『動物化するポストモダン』『ゲーム的リアリズムの誕生』 6. 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』 7. 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』 8. 庵野秀明『エヴァンゲリオン新劇場版：破』 9. 庵野秀明『エヴァンゲリオン新劇場版：破』 10. 大場つぐみ・小畑健『DEATH NOTE デスノート the Last name』 11. 大場つぐみ・小畑健『DEATH NOTE デスノート the Last name』 12. 小さな出版社の作り方 13. 高畑 勲『かくや姫の物語』 14. 高畑 勲『かくや姫の物語』 15. 全講義のまとめ <p>定期試験</p>					
テキスト・教材（参考文献含む）	<p>（テキスト）宇野常寛著「ゼロ年代の想像力」早川書房（2011年）定価：902円</p> <p>各講義において、PowerPoint資料を提示、プリントを配布します。</p>					
事前・事後学習	<p>本や小説、映画、漫画、ドラマ等により時事的なニュースや社会に触れること。（80分）</p> <p>授業後には配布資料に目を通し復習すること。（10分）</p>					
成績評価方法	<p>成績評価は、授業への参加度40%、定期試験（レポート）60%による。レポート試験については、希望者は返却するなどの対応をします。</p>					
授業内の課題・提出方法	<p>出席カード裏で、毎回の課題（感想や意見）を提出してもらいます。</p>					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>出席カード裏での毎回の課題（感想や意見）について、次の回の授業の冒頭で質問があれば回答し、また良いもの面白いものなどがあればとり上げ、コミュニケーションしていきたいと思えます。</p>					
担当者から一言	<p>できる限り関心が持てるように工夫をした授業となりますが、内容自体はそれなりに高度な内容を含むものです。よって、やる気がある学生を歓迎します。また授業内で、できる限りコミュニケーションがとれるように設定しています。なお、コピー&ペーストは厳禁です。</p>					